

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

「ゴジラ」が「コシラ」じゃ  
なんだか弱そう

『「あ」は「い」より大きい!』

— 音象徴で学ぶ音声学入門 —

川原繁人 (言語文化研究所准教授) 著  
ひつじ書房 / 1944円 (2017年11月)



とっつききの面白さ、わかりやすさと、

いつの間にか引き込まれてしまう語り口が魅力的な音声学の入門書だ。本書のキーワードである音象徴とは、名前に使われている音によってイメージに影響が出してしまう現象のこと。例えばゴジラのネーミングがコシラだったら怖くないし、進化に合わせてピチュー↓ピカチュウ↓ライチュウと変化するポケモンの名前も、なるほどとうなずける。ところで、「あ」は「い」より大きい!?!とは何か……:口の開き方、舌の位置に関係して、音から受けるイメージが異なることだが、詳しくは本書を読んで確かめてほしい。

教職員執筆の最新刊

●伊東大介 (医学部専任講師) 著

『認知症—専門医が教える最新事情』講談社+α新書 / 907円 (2017年11月)

●古川晴彦 (高等学校教諭) 著

『ジブリの授業—語りえぬものたちの残響と変奏に耳を澄ます』アルファベータブックス / 2160円 (2017年12月)

●根本彰 (文学部教授) 著

『情報リテラシーのための図書館—日本の教育制度と図書館の改革』みずず書房 / 2916円 (2017年12月)

●増田真也 (看護医療学部准教授)、坂上貴之 (文学部教授) ほか編著

『心理学が描くリスクの世界 第3版—行動的意思決定入門』慶應義塾大学出版会 / 2592円 (2018年1月)

●斎藤慶典 (文学部教授) 著

『「東洋」哲学の根本問題—あるいは井筒俊彦』講談社選書メチエ / 1944円 (2018年2月)

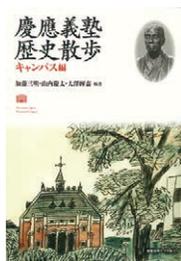
●太田康広 (経営管理研究科教授) 著

『ビジネススクールで教える経営分析』日本経済新聞出版社 / 929円 (2018年2月)

## 慶應義塾この一冊

『慶應義塾歴史散歩 キャンパス編』

加藤三明 (幼稚舎教諭)、山内慶太 (看護医療学部教授)、大澤輝嘉 (中等部教諭) 編著  
慶應義塾大学出版会 / 2700円 (2017年10月)



1858(安政5)年の創立から160年目を迎える慶應義塾は、キャンパス内も歴史の宝庫である。島原藩の中屋敷があった三田への移転は1871(明治4)年。現在、構内には義塾のシンボルともいえる優美な図書館旧館や三田演説館がある。1934(昭和9)年に開設し、清新な土地に理想的な学園づくりを目指した日吉では銀杏並木が美しい。さらには矢上、信濃町と、キャンパスの歴史散歩に興味は尽きない。また第2次世界大戦末期に、日吉キャンパス内の地下壕に海軍連合艦隊司令部が置かれたことなど、歴史秘話もいろいろ。